

令和 2 年 度

町 長 施 政 方 針

令和 2 年 3 月 3 日

日 南 町

1.はじめに

私が町の行政トップという立場となり、1年余りが経過しました。駆け足の1年間であったと感じています。

令和という時代となり、世界・日本・日南町の動き、流れ、変化を感じながら、これからの厳しい時代を見据え、切り拓き、次世代につなぐという覚悟をもって町政運営に取り組んでまいります。

昨年は、日南町が誕生して60年、時代は平成から令和へと変わりました。そして、60周年を記念して作成しました「町報で振り返る日南町制60周年の歩み」から、先人の皆さんの勇気と努力・団結のもとで、私たちの町“日南町”が今も脈々と力強く存在していることを改めて感じることができました。

近年の町の歩みとして、まちづくりの基盤となるまち（むら）づくり協議会、小学校統合による保小中一貫教育、子育て支援センター、新たな介護施設のあかねの郷・あさひの郷などの医療介護環境、道の駅をはじめとした商業ゾーン、トマト生産売り上げ2億円の達成、木材団地整備と関連企業の設立、J-クレジット制度、再生エネルギー関連事業、農業研修制度、林業アカデミーの開校などの様々な基盤が整ってまいりました。

私はこれからの町政運営にあたって、これらの施策をさらに継続・充実させながら、町民の皆さんが健康で豊かさを感じながら、誇れるまちづくりに取り組み、次世代につなぐための創造的過疎への挑戦を続けてまいります。

さて世界に目を向けますと、第50回目となるダボス会議において、重要テーマの「気候の危機」といわれるまでに深刻化した地球温暖化について、解決への取り組みを加速させる成果は得られませんでした。スウェーデンの環境活動家グレタ・トゥンベリさんは、「危機をあるがままに認識しなければならない。私たちの家は燃えている。」と各国に積極的な対策を求めました。また、「自国第一主義」が台頭し、中国での「新型肺炎」が発生するなど、世界経済や観光に大きな影響を与えようとしています。また悲惨な紛争も続いており、収まりがみられない状況にあります。

国内においては、人口の「少子化」「高齢化」「東京一極集中」が続き、世界でも例を見ない状況があり、労働力不足は地方だけでなく都市でも始まっています。更には近年「気候変動」により甚大な災害が続いており、本町の近年の大雨や降雪量の減少もその表れではないでしょうか。そして、「働き方改革」や「全世代型社会保障」、「一億総活躍社会」、「同一労働同一賃金」の時代が始まり、さらには「人生100年時代」といわれるようになりました。地方、特に中山間地域においては人口減少が著しく、近い将来

においては各地域で「限界自治体」あるいは「無医地区」、また「東京23区内でも4人に1人が高齢者」と予測されるなど、目まぐるしく社会が変わる未来が予測されています。一方でそうならないために「地方創生」という名のもとに、全国の自治体や国民が創意工夫を凝らしてあらゆる施策に挑戦し続けています。そうした取り組みが続く中で、明治大学の小田切徳美教授は、「にぎやかな過疎」あるいは「むら・むら格差」という言葉を発信されています。努力の結果に差はあるものの、地域を挙げて取り組んできました。こうした中で今年の9月26日に厚生労働省が公立・公的病院の再編・統合について実名を公表したことは、廃止しろといわんばかりの厳しい行為であり、そこに地域医療の視点はなく、全国一律の線引きでありました。自治体病院は民間ではできない役割を担い、地域医療・介護の責任を果たしています。そして、今後都市部でも高齢者が増えていく中で、これからの取り組みが必要とされる「地域包括ケア」について、国はどう展開されていこうとしているのか、今回の厚生労働省の発表は矛盾だらけで何かおかしいと言わざるを得ません。

このように、総じて日本は様々な「転換期」にあるといえます。この時代において将来のまちづくりをどう進めていくのかが、全国の自治体に問われている大きな課題です。地域の特徴・特性を生かし、関係人口や交流人口の増加に挑戦する更なる5年間の第2期地方創生となります。

日南町は、こうした日本の社会背景と町の現状、将来を考えると、「待ったなしの時期」を迎えているといえます。そして、「もう一度作り直す」という気概と時代の変化に合わせていく視点と考え方が必要であります。私はそのために、「補助人」「全員参加」「自立」というキーワードと、魅力を切り札に変えていくまちづくりを行っていきたくと考えています。10年先を予測したとき生産年齢人口は、半減します。この流れを変えなければなりません。私はこの難局を乗り越えるため一緒になって議論し、その先頭役を担っていきます。こうしたことを推進するために、第6次日南町総合計画、第2期「まち・ひと・しごと創生日南町総合戦略」、そして行財政改革実施計画（特に働き方改革）を策定し、日南町らしい目指すべき姿を構築します。そして「あるものを生かす」「あきらめない」という姿勢と、「すべて自分事として考える」ことが大切であり、全員参加を基軸として、町民の皆さんとともに推進していく必要があります。そのためにも、持続可能な未来都市SDGsの目標達成を、各計画の目指すべき内容に連動する位置づけをしました。

そして、令和2年度当初予算には計上していませんが、教育部門における保小中一貫教育推進のための体制づくりや、本年6月に施行される「特定地域づくり事業推進法」に基づく事業展開、空き家を含む今後の住宅施策などについて、令和2年度中に検討を進め、意見交換を重ねながら準備をしていきたいと考えています。

2. 令和2年度予算編成

令和2年度の国の予算は、消費税増収分を活用した社会保障の充実、経済対策の着実な実行、歳出改革の取り組みの継続により経済再生と財政健全化を両立するものとされており、全世代型社会保障制度構築に向けた内容となっています。経済対策は、オリンピック・パラリンピック後も見据えて、個人消費や投資を切れ目なく下支えするものとなっています。激動の平成が終わり、令和という新しい時代がスタートし、2042年には、今の団塊世代の子世代が高齢者となり、全人口の37%を占めることとなります。

令和2年度本町の予算編成に向け、全職員に次のとおり示達しました。「日本の30年先をゆく町」という認識のもと、冷静な現状分析と挑戦による施策の選択と集中で、持続発展可能な町政運営を目指すべく将来を見据えた事業構築を行う。そして「地方創生の一層の推進」「SDGsの目標達成のための推進」「事業の効率化・スリム化・AI（人工知能）やICT（情報通信技術）の活用」「予算編成経過の共有および継承」「財源確保の取り組み」「災害に対応した防災、福祉体制の強化」「料金体系の試算」「より良い行政サービスの提供」を柱に職員と一緒に予算編成を行いました。その結果、令和2年度の一般会計当初予算額は、対前年度11億8,623万円、15.0%減の、67億199万円となりました。

歳入の主な内容を申し上げますと、地方譲与税のうち森林環境譲与税が5,702万円で3,022万円の増加となっています。地方消費税交付金が1,850万円増加、地方交付税は昨年度と同額の28億5千万円を見込んでいます。町債は、デジタル防災行政無線整備事業や木材団地造成事業などの大型事業の皆減により7億1,801万円減の10億2,377万円を見込んでいます。

歳出では、昨年度に引き続き第2期タウンズネット光化事業を実施し、完成を目指します。また、主要な新規事業は、公共施設個別施設計画策定支援業務委託、2市4町運用共通化収納業務システム改修業務委託、空き家等リノベーション創業支援、林業アカデミー実習棟建設事業、サクラクレパスオリジナル商品開発委託、就業管理システム導入（10年間のリース）、ドローン操作教習受講、ゆきんこ村グラウンド芝生化事業、日野郡ふるさと教育推進事業、日南町学校給食費補助金、日南中学校トイレ改修事業などを実施します。公債費は、道の駅整備事業関連の元金償還が始まることにより、対前年9,317万円の増となります。

これらにより不足する財源は、財政調整基金より1億4,265万円繰り入れることとしています。

また、国民健康保険特別会計など、特別会計予算総額は17億6,493万円で、対前年度3,958万円、2.2%の減となりました。簡易水道事業、下水道事業、病院

事業の企業会計予算総額については20億2,218万円で、対前年度2億4,389万円、13.7%の増となりました。この結果全会計総額は、104億8,911万円で対前年度9億8,192万円、8.6%の減となりました。

3. 町政運営の基本方針

全国の市町村が策定し実践してきた第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略が終わろうとしています。本町においてもしっかりと結果を精査し、分析したうえで次の第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略につなげてまいります。町民が豊かさを感じ、誇れる町づくりに向けて、引き続き「産業振興＝しごと」、「町民が安心して暮らせる健康なまちづくり＝まち」、「心豊かに生きる協働のまちづくり＝ひと」を町政の柱として進めていきます。そして、単体ではなくそれぞれのしごと、まち、ひとの総合力が問われている時代と考えていますので、視点を変えた考え方を加えて取り組んでいきたいと思いません。

産業振興（しごと）

本町の産業基盤は、第1次産業の農林業であります。先輩方が体を張り、汗を流してこの農地や森林を守ってきました。そして私たちはその恵みを得て生活基盤を構築してきました。しかしながら現在は、価格低下や人口流出、高齢化などの社会背景の中で、担い手不足などの大きな課題は続いています。国においては、「食料・農業・農村」の基本法が見直されようとしています。地方が担っている食料や農業など第1次産業の発展なくして日本の未来はありません。農林業が更に魅力ある業種となる仕組みづくりに声を上げてまいります。

農業振興については、現行制度の支援を継続していきます。一方で、将来の農家数は減少していきますので、農地の維持、所得向上に向けての「日南町の10年後の農業のあり方」について農業委員会を中心に検討していただいています。町民の皆様の意見をいただきながら、若者が「スマート・魅力的・稼げる」と思える農業になるよう、新たな仕組みづくりを模索していきます。併せて現在の農業研修生制度においても、他の地域に勝る魅力ある制度となることが必要であり、見直しに向け早期に検討を進めます。例えば、インターンシップ制度や資格取得制度、先進地域への研修、AI・ICTを組み入れた研修などについて前向きに検討してまいります。そして生産性の向上や労働力の軽減など法人の皆さんの利用にもつながるよう推進していきます。

林業振興については、現在進行中であります「林業成長産業化モデル事業」の着実な推進を図っていきます。新たに設立された日南大建株式会社の建築工事も始まりました。

令和2年度中には操業開始され、雇用も3人と聞いています。また、パーク等を活用したバイオマス発電も検討されており、地域内経済循環に期待するところです。「林業アカデミー」については、第1期生7人中、4人から5人が日南町内での就職予定で、4月からの第2期の生徒の応募状況は定員10人に対して現在7人の予定であります。今年に入って岡山県とのパートナーシップ協定を締結しましたので、今後この地域からの生徒採用が期待されます。森林環境譲与税も2年目となり、前倒しの増額となりました。その財源を活用した森林管理システム事業の進捗を図るとともに、行政管理分の事業化に向けて構築を図ります。

モンゴルとの交流事業について、引き続き協議中ではありますが、推進にあたっては通訳が可能な人材を確保し、今後の具体的な仕組みづくりを進める1年としたいと思っています。

女性の活躍の場として、町内では医療・介護等を中心に従事していただいておりますが、女性の労働力の確保は重要であり、女性の生き方の多様性の観点も視野に入れていく必要もあります。女性にとって「働きやすい職場」を作っていくことが求められており、長く活躍をしていただける職場環境づくりへの支援に取り組んできたいと考えます。

新規事業の一つとして、「空き家等リノベーション創業支援事業補助金（仮称）」制度を設けました。誘客を目的とした空き家等のハード整備に対して、町が金銭的支援を行うことで、空き家等の利活用促進、観光収入等の増加、関係人口の増加、IUターンの促進に資することを目指し、国庫補助制度を活用の上、町の負担500万円を計上しました。

町民が安心して暮らせる健康なまちづくり（まち）

第2の柱は「町民が安心して暮らせる健康なまちづくり」です。町民の皆さんのライフステージにおいて明るく健康な生活が送れる環境が重要であります。我が国も「人生100年」といわれる時代となり、男性の平均寿命も約81歳、女性においては約87歳となりました。昨年、がん検診の受診率を向上させるため、受診率80%を目標に据えました。令和元年度の状況ですが、胃がん検診は日南病院も委託医療機関に加わったこともあり、対前年比7.6%の伸びとなりました。しかし、その他の肺がん検診、大腸・乳がん・子宮がんは1%から7%の減少となりました。原因は様々ですが、秋に住民検診ができなかったこともその一つです。そうした中ではありますが、初回受診者は、平均12.5%、一つのがん検診に約45人の方に受けていただきました。来年度は保健師1人を新規採用し、これからも引き続き受診率向上について推進していきます。

医療分野についてですが、先に触れた昨年の唐突な国の公立公的病院の再編統合問題は、その後国との協議の場が設けられてきましたが、再検証のスケジュールについては、多少延長となる予定です。改めて申し上げますが、再編統合は町長として全く考えてい

ないことを町民の皆様にお伝えします。そして、自治体病院はそれぞれの地域の財源で賄っており、病院のありようは地域の人が決めていくものです。一方で、これからの人口減少をはじめとして医療需要が減少することに対しては検討する課題は残ります。地域住民に持続可能な確かな医療を提供するとともに、質の高い安定的な医療環境を確保するために日野郡の3つの公的医療機関がある3町および鳥取大学医学部附属病院で協議して「日野郡医療連携協定（仮称）」を結ぶ予定としています。具体的な内容については協議中ですが、日野郡全体の医療環境確保につながる内容を考えています。併せて県西部の地域医療構想についても鳥取県を含めてしっかりと議論していきます。経営コンサルタントの意見も踏まえて、今後の療養病棟のあり方も令和2年度中に結論を導き、必要な改善計画を立てていきたいと思っています。4月には、日南病院に4人の看護師の新規採用がある見込みで、しっかりと人材育成に努めていきたいと思っています。

介護分野について、運営する社会福祉法人は、現在厳しい運営が続いています。昨年経営コンサルタントを受け、課題が明確になってきました。そして具体的な経営改善の検討と実践が必要となります。町としても様々な方面から支援していきたいと思っています。

現在、法人においても別の分野のコンサルを受けて改善を進めています。運営開始から15年経過しますので、様々な課題を早期に解決して健全な運営・経営ができるよう再生を促し、期待したいと思っています。

障がい者および高齢者福祉分野においては、一昨年障がい者グループホームが開所され、本年2月現在6人が利用されています。また昨年には隣接に有料老人ホームも開所され、現在6人の方が利用されています。豪雨災害などが多発する近年の状況もあり、冬季間のみならず、元気なうちに安全な場所に集まり住むという「住み替え」も状況によってはあり得るのではないかと考えていますので、引き続き議論してまいります。

情報通信網の整備について、令和元年度に着工しました「タウンズネット光化事業」が、2年目の完了年度であり、しっかりと補助金を確保した上で、推進してまいります。各ご家庭には、丁寧なお知らせを行いながら、工事推進を図り、早期の利用開始を目指します。併せて、この強化された情報網を活用した更なる住民サービスの向上につなげていきたいと思っています。

公共交通分野では、現在中央大学と連携して、アンケートや実態調査を進めているところです。今まで様々な取り組みを進めてきましたが、更なる再編を考える時期となっています。住民の皆さんの声に寄り添いながら更なる利便性向上に努めてまいります。

道路等交通インフラ分野についてですが、昨年末に国土交通省より地域高規格道路江府三次線の鍵掛峠道路が2025年度（令和7年度）完成見込みと発表されました。また、鳥取県事業の国道改良として、河上バイパスの宮内側（蛇巻）が完成しました。現在は河上側のⅡ期工事と宮内バイパス、福長バイパスも推進されており、近年には着工が見込まれ、早期完成を望むものです。通勤や物流への効果を期待するとともに、安心安全な道づくりに努めていきたいと思っています。当初予算では、治山事業、道路維持管理

事業、林道新設改良事業、道路新設改良事業など約3億2,100万円を計上しました。補助事業を確保しつつ、早期完成と堅実な進捗に努めてまいります。

ここ数年、J-クレジットの購入が順調です。カーボンオフセットの趣旨を理解いただき、会社の理念にマッチしている企業が賛同・購入していただいています。コーディネーターのお力添えもあり、日南町とゆかりのある企業から地元の企業などとの契約となっており、複数回購入いただく企業も増えてきています。SDGsという持続可能な開発目標の考え方に企業理念がシフトして、社会や環境への貢献が会社の価値向上につながるという時代が来たように感じています。J-クレジットを購入された民間企業とのお縁を大切に、他の分野にもつなげていき、ひいては補助人として地域経済循環につなげていきたいと考えています。

防災分野につきましては、昨年から引き続き各地域に出向いて、自主避難所開設や災害対策についての情報交換を進めていきます。また自衛消防団用の可搬消防ポンプ2台（佐木谷・中石見）の更新を行うほか、断水等の緊急対応としてステンレス製の給水タンクを購入して、初動体制の充実に努めてまいります。

ふるさと納税寄附金ですが、2月10日現在、昨年実績より金額ベースで91%と下回っています。今年度は取扱い窓口サイトを増やすなどには取り組んでまいりましたが、今後は、関係のある企業に対して直接依頼していくなどの取り組みも加えていく予定としており、2年度は3,000万円を目標として予算化しています。

心豊かに生きる協働のまちづくり（ひと）

第3の柱、人についてであります。

平成31年3月の内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局から、「出生数や出生率の向上に関する事例集」が出され、全国13市町村の事例があり、その一つに日南町が紹介されています。その日南町の特徴の要旨は、「①若い世代の転出と人口減少が続く一方、出生数は横ばい。②親の同居・近居割合が高く、共働きを当然と受け止める地域社会であり、女性の就業率は高い。共助の精神が受け継がれていることに加え、柔軟な働き方の広がり仕事と家庭の両立をさらにしやすくしている。③子育て支援策の充実に取り組んでいる。基幹産業の農林業や、人手不足が著しい医療・福祉への人材育成・就業促進にも取り組む。」と整理されています。

そうした中、全国的に「働き方改革」が推進される中で、役場職員や教育現場、民間企業にも働き方に対する積極的な見直しが求められています。役場では、「就業管理システム」を導入することとし、職員の出退勤の時刻を明確にするとともに、時間外勤務の実態把握に努めて、働き方改革の推進や健康管理に役立てたいと考えています。人手不足の中で、より一層の効率的な業務が求められており、事務事業の見直しを含めてその基礎となる実態把握に努めます。また、会計年度任用職員制度が始まりますので、関

係職員にきちんと説明して制度運用を開始します。

婚活事業や仲人報奨金制度、同窓会開催支援制度は引き続き事業展開していきます。現在までの成果としては、現在までに2組の成婚や2組の仲人成立、1組の同窓会の開催ですが、今後もPRに努め情報発信していくことが重要であると考えています。日南町の風土として、既婚者の出生率は高い傾向にあります。最近の傾向として、1人の女性が3人、4人と多く出産されるケースが見受けられます。日南町における現在の子育て環境を見て、4人目を生んでも大丈夫という意識の変化もあると感じており、うれしく思っているところです。

社会教育分野ですが、本年度から「ふるさと教育」高校生版を日野郡3町が連携して進めます。以前は「優風音（ゆぶね）」という名称の高校生のサークル活動を支援してきました。また近年高校生の集いの場づくりにも取り組んでいますが、高校生も忙しく、米子に通う子供たちも多くなり、自宅と学校の往復という生活の中で、地元日南町とのかかわりあい越来越少くなり、結果として地元に住む・地元で働くということにつながっていません。今は、都会も地方も人手不足の社会です。そして、地方も豊かになりました。これからの少子化社会、予測できない社会の中で人生の選択をしなければならない高校生という時期に、少しでも大人からのメッセージや地域の情報を伝えていきたいと思っています。現在、小学校・中学校では「ふるさと教育」を実践しています。町内にある魅力的なもの、いわば「地域の宝」を自分の目で見て・体験し・感じて、地元の大人たちと関わりながら、日南町とのつながりが継続しています。「人が生きるのに必要なものとは何か」を考えさせる取り組みとなっていると感じています。先日、小学校の成果発表会がありました。実行委員10人を中心に自分たちで進行し、また案内状も自分たちの手作りによるもので自主性を重んじる学校側の取り組みに感心しました。小中高の連続したふるさと教育をつなげていけば、「ふるさと」を考える子どもたちが増えて町の応援団になってくれると期待します。

学校教育分野ですが、日南小学校統合を契機として「保小中一貫教育」を柱に進めてきました。統合から10年以上の経過の中で、学校自体のあり方の変革を求められている時期でもあります。本年4月からは小学校で新学習指導要領がスタートし、小学3年生から外国語活動や5・6年生で教科としての英語教育も始まります。また、教職員の「働き方改革」、平成29年度から努力義務となった「コミュニティスクール」の設置など、目まぐるしい変化への対応が求められている学校現場です。それらに対応していくためには、学校現場はもちろんのこと、保護者や地域・教育委員会などすべての方の理解と協力が必須となっており、来年度をこれからの「日南町義務教育のあり方」を検討する年にしたいと考えています。そして、保育園の位置づけについて、保育と教育の連続性の観点から、組織のあり方も視野に入れて検討していきたいと考えています。今、保育園の職員も先進地視察を行い、新たな保育の取り組みについて積極的な研修に取り組んでいます。日南の子どもの未来に「生き抜く力」をつけていく、「学力」をつけて

いくことの責任を、みんなで考え実践していかなければならないと考えています。本年度は、学校給食補助金として104万円を計上しています。これは給食材料費全体の値上がりのため、現状の栄養確保の観点から、材料費の不足相当にあたる日南産米購入費を補助とすることとしました。また、昨年から進めています日南中学校のトイレ改修を1,805万円予定しています。

4. 結びに

日南町が誕生してから60年。豪雪、降雹、豪雨などの災害も度々ありました。そのたびに町民が力を合わせてその壁を乗り越えてきました。

現在、日南町は少子化、人口減少による担い手不足、という大きな局面に立たされています。町民の皆様全員の参加でこの難題を乗り越えていかなければなりません。町民の皆様、議会の皆様と力を合わせて4千5百人余りの町民が豊かさを実感し、誇れるまちづくりに全力で取り組み、次世代につなげてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

この夏には東京オリンピック、パラリンピックが開催されます。日南町内での聖火リレーは5月22日の予定で、役場から道の駅までの間を聖火ランナーが走ります。聖火リレーの声援や本大会も応援していただき、スポーツの魅力や感動を味わっていただきたいと思います。そして、災害のない1年になることを祈念して、令和2年度にあたっての施政方針といたします。